

鳥獣害対策について

熊、アライグマ

上里農地、水、環境組合

目次

- 1 蘭越町について
- 2 上里地区について
- 3 熊の被害について(被害場所、時間、被害状況)
- 4 熊対策について(勉強会、草刈り、電気柵)
- 5 対策後の状況について
- 6 アライグマの被害について(目撃、被害場所)
- 7 アライグマ対策について(勉強会、北大との合同調査、捕獲)
- 8 アライグマの現状について
- 9 今後に向けて
- 10 総括

1 蘭越町について

蘭越町は、後志総合振興局管内の南西部に位置し、周囲をニセコ連峰等の山岳に囲まれており、町の中央を道南最大の河川「尻別川」が東西約30kmにわたり貫流し、日本海に注いでいる。また、その流域に広がる平坦地は、肥沃で水田の耕作に適しており、ここで生産される蘭越米は良質美味で道内外で好評を得ている。また、メロン、トマト、アスパラ等の栽培も盛んである。気候は比較的温暖であるが、冬は積雪量が多く、特別豪雪地帯に指定されている。



2 上里地区について

- ・上里地区は蘭越町の北西部にあり、雷電岳の裾野の中山間地域である。これより北には人家がなく、南の田園地帯と北側の山とに挟まれた里山地区となっている。
- ・戦後開拓者が入植しはじめた、非常に新しい地区である。最近では自然を求めて移住してきた人も多く、蘭越町の中においては異色の地域となっている。
- ・現在戸数は26戸あり、農業、林業、会社員、自営業、定年退職者など多種多様である。本州からの移住者も多く、豊かな自然の中で家庭菜園などを楽しんでいる人が多い。
- ・この地域は新しい地域だけに、豊富な湧水を利用したこの地区独自で設置した水道設備や、今でいう小水力発電（現在は無い）、蘭越町で最も早く学校給食を行うなど先進的な試みを昔から行ってきた。
- ・上里農地、水、環境組合は平成19年に上里町内会員を中心に発足した。蘭越町においては農家以外の割合が非常に高い組織となっている。

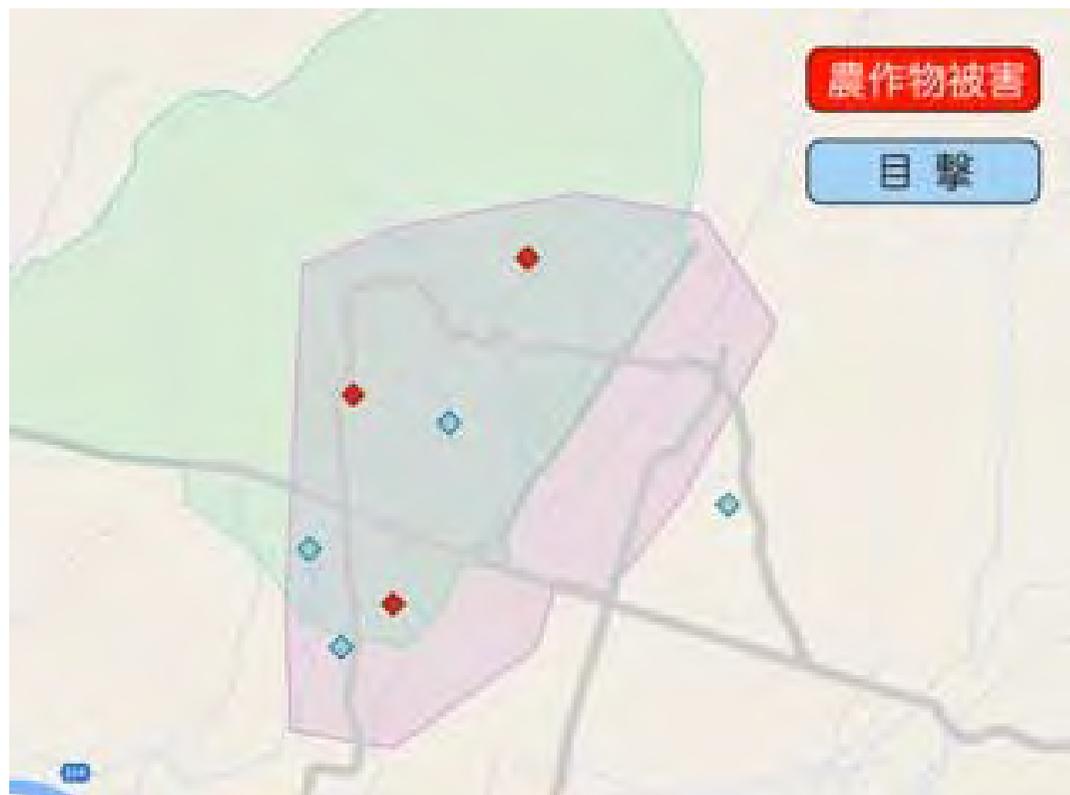


3 罨の被害について

- ・平成18年に上里地区上部の農家付近にて頻繁に出没した。
この農家では、ヤギ1頭とニワトリ数匹、庭に植えてあった果樹等を狙って来たようである。
その年は、果樹に若干の被害が出たほか、飼い犬がクマのストレスで衰弱し、農地横のため池にはまって死亡した。
- ・平成19年には、この農家から約2^キ離れたところでヤギ3頭、カボチャ畑、飼い犬1匹が被害にあった。
飼い犬は熊に向かって行って殺されたものである。
- ・上里地区下部の田んぼにおいて、毎年のように8月下旬になると稲が荒らされた。
- ・上里地区西部のアスパラ畑周辺にて頻繁に足跡が目撃された。

被害のあった場所、時間等

- ・実害のあった場所、目撃場所ともに共通しているところは、すぐ近くに藪等の身を隠す場所があり、地理的に端に位置していることである。
- ・出没しているのは、日没から明け方までと思われる。
- ・時期が8月下旬に集中している。
- ・ヤギなど動物のいるところを狙って来ている節がある。



被害状況



襲われたヤギ



襲われたニワトリ小屋

4 罾対策について

・話し合いの開催

被害にあった農家を中心にすぐに町内会において会合が開かれた。被害にあった人となかった人との間にかなりの温度差があり、激論となってしまった。

被害にあった人達は、直ぐにもハンターを手配して処分してほしいということであったが、ハンターも少なく、高齢化し、さらに無雪期の狩猟は非常に危険であるということであった。

幸い知り合いに罾について詳しい人がいたので、その人を介して専門家に来てもらい勉強会を開いて、罾について知ろうということになった。

・勉強会の結果をもとに重点的に草刈り、電気柵の設置を行った。

熊勉強会

北海道環境科学研究センターの間野 勉先生に来てもらい平成19年9月20日に勉強会を行った。

上里町内のみならず、周辺地域からの参加者もあり、かなりの人数の中で行われた。

その時の内容は以下のようなものである。

- ・被害にあった場所の現地視察
- ・熊による過去の被害事例
- ・熊の習性
- ・被害を避けるための方策
- ・質疑応答



間野 勉先生

勉強会の様子



草刈り、電気柵の設置

勉強会時の視察、内容をもとに草刈り、電気柵の設置を行った。



5 対策後の状況

現在でも毎年草刈り、電気柵の設置を行っており、その結果その後の被害は**ゼロ**である。
しかし、写真のように熊は毎年往来していると思われる。引き続き対策は必要である。



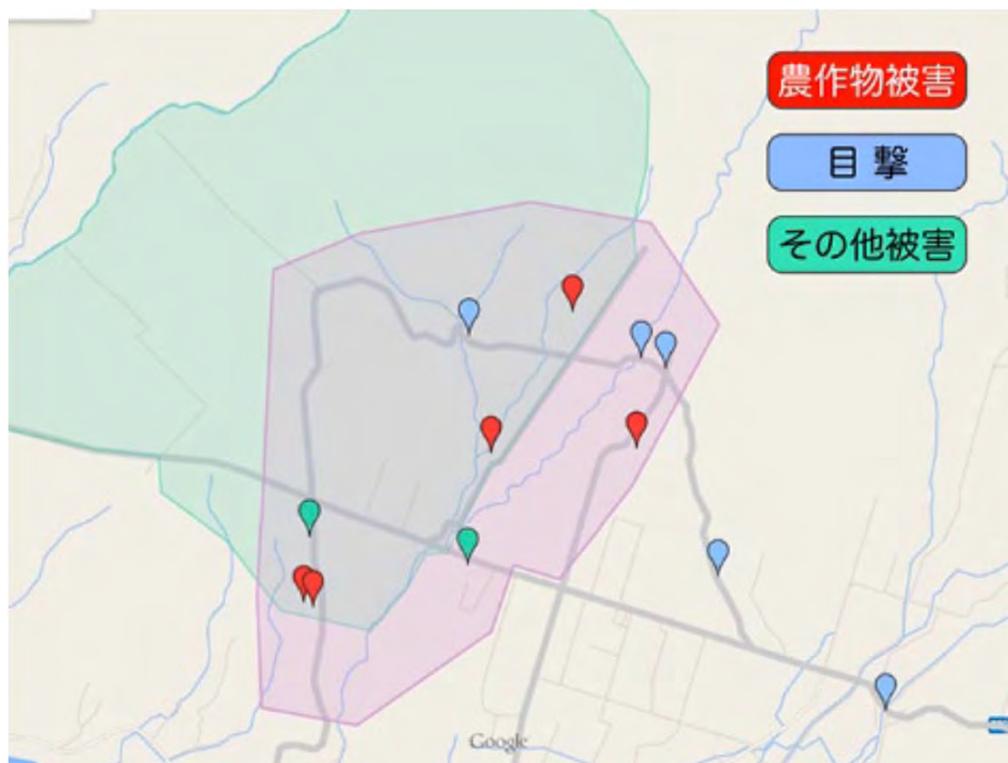
平成27年7月雷電岳登山道にて



平成26年9月上里上部の畑にて
左:前足、右:後足

6 アライグマの被害

目撃、被害場所



被害にあったトウキビ

7 アライグマの対策について

勉強会の開催

- ・熊の時同様、まずアライグマのことを知ろうということで、環境省鳥獣保護管理プランナーの池田 透先生に来ていただき、平成26年1月5日に勉強会を行った。
- ・この時の勉強会で、実害が出たときはすでに相当数のアライグマがおり、そこから対策(捕獲)していったのでは数を減らすのは大変難しいといわれた。
- ・上里地区において、住民主体でこのような動きをしたが、行政主体ではない活動は大変珍しいということであった。
- ・上里地区にあっては若干の被害と目撃情報があったが、アライグマかどうか分からなかったなので、その調査から始めることにした。



環境省鳥獣保護管理プランナー
池田 透先生

勉強会の様子



アライグマ対策表

上里農地水環境組合 蘭越町字上里のアライグマ対策 概要 2014年

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																		
							痕跡確認	箱ワナ			箱ワナ																		
1月5日 講師 池田透氏 北海道大学大学院文学研究科地域システム科学講座 蘭越町アライグマ防除講習 14時半～17時 上田農事研修センター	6月26日 カメラ1台設置 坂本家	6月27日 池田氏上里下見	7月4日 北大による痕跡確認調査 4班に分かれて行動 カメラ設置 計8台	7月5日 北大による痕跡確認調査 データ回収 ヒアリング 坂本家・菊池家	7月6日 北大による痕跡確認調査 カメラ回収 アライグマ1頭記録確認	7月13日 継続調査 カメラ4台設置 ため池近くの沢 アカハラ川 菊池家 堤の沢川	7月29日 継続調査 データ回収	8月10日 継続調査 データ回収	8月13日 町に対して箱ワナ設置を要望	8月18日 箱ワナ4台設置 ため池近くの沢 アカハラ川 菊池家	8月21日 箱ワナ5台設置 宮下家 坂本家 隠し田近く 但木家畑 堤の沢川	8月21日 タヌキ設置 #4菊池家	8月22日 キツネ設置 #5宮下家	8月23日 箱ワナ移動 #8但木家畑↓阿部家	8月25日 箱ワナ移動 #2アカハラ川↓宮本家 #5宮下家↓富樫家 #6坂本家	8月28日 データ回収	9月1日 1頭捕獲 #2宮本家	9月2日 1頭捕獲 #3アカハラ川	9月上旬 箱ワナ移動 #7阿部家古田公園周途中道路脇の沢↓近くの取付道路脇	9月中旬 箱ワナ移動 #6宮本家↓坂本家	9月中旬 タヌキ設置 #6坂本家	9月23日 1頭捕獲 #2宮本家	9月23日 ネコ設置 #8阿部家	10月17日 タヌキ設置 #5富樫家	11月2日 箱ワナ回収	11月2日 1頭捕獲 #1ため池近くの沢	11月6日 箱ワナ3台設置 ため池近くの沢 アカハラ川 堤の沢川	12月7日 箱ワナ・カメラ回収	カメラ4台設置 ため池近くの沢 アカハラ川 堤の沢川 バンケ橋



無人カメラ



箱ワナ

下見風景



北海道大学との合同調査風景

無人カメラの設置

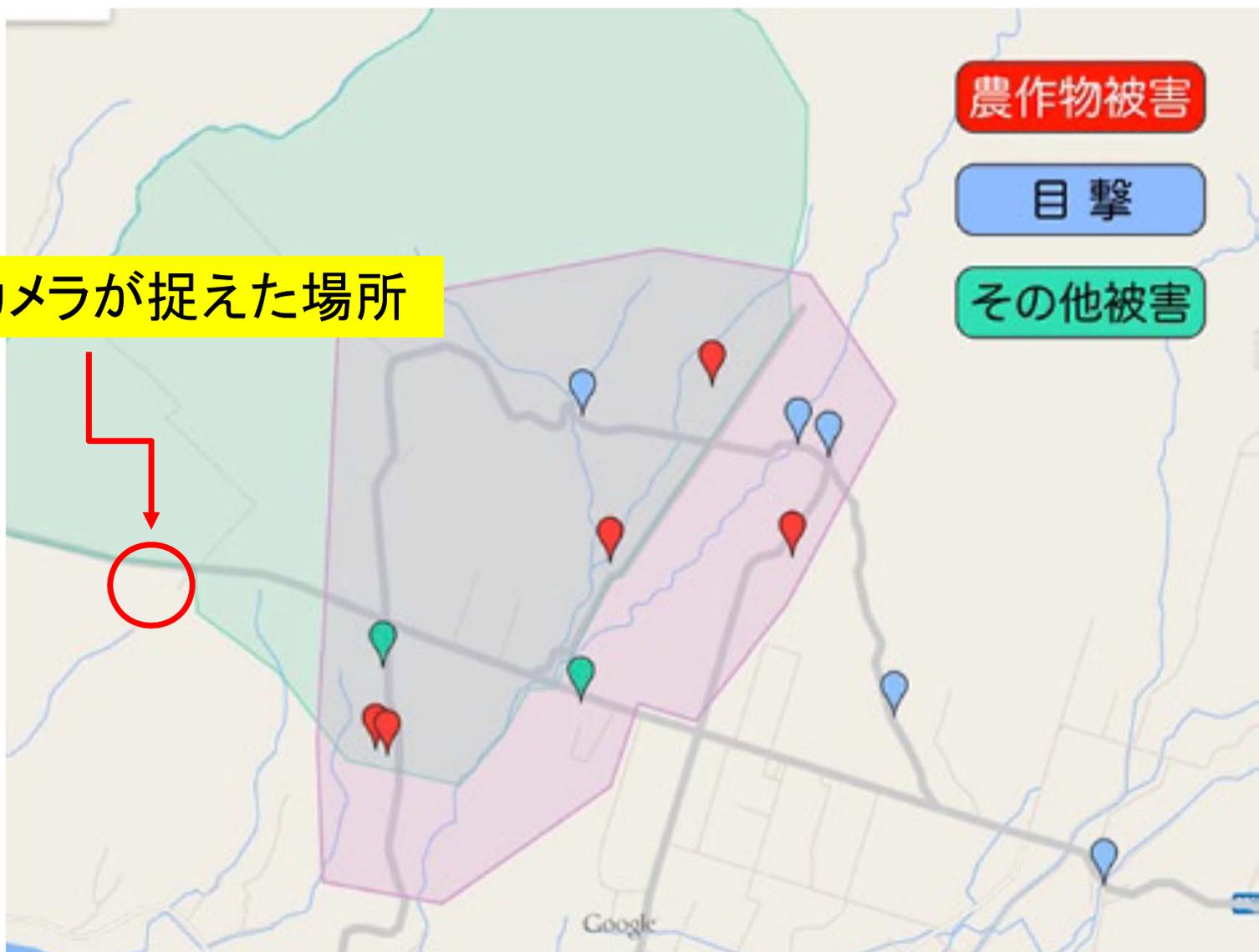


トラップを設置して足跡調査



被害農家への聞き取り調査





最初にカメラが捉えた場所

農作物被害

目撃

その他被害

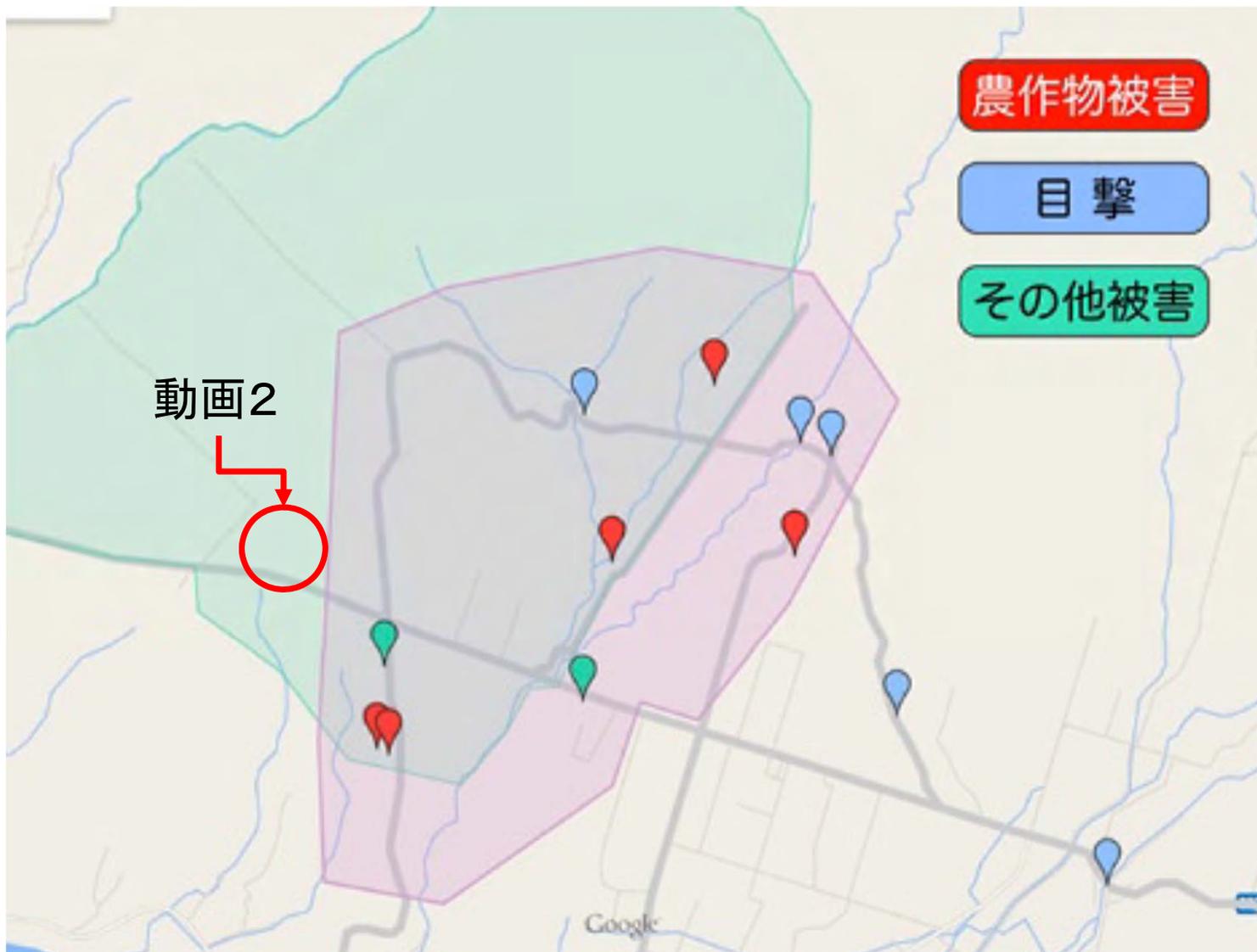
最初にカメラが捉えた場所(小沢)





動画1





動画2



箱ワナの設置



アライグマの捕獲



誤捕



8 アライグマの現状について

- 現在当組合(上里農地、水、環境組合)では2名狩猟免許を取得し、町と連携してアライグマの捕獲、処分を行っている。
- アライグマのいそうな所では、かなりの確率でカメラに映っているので相当数いると思われる。
- 平成26年、27年と蘭越町全体では毎年20匹前後の捕獲があるが、その繁殖(毎年4匹前後)、目撃数、天敵のいない状況等を考えると、かなりの数が増えていると思われる。
- 現在捕獲は箱ワナで行っているが、捕獲率が低いうえ管理が大変である。箱ワナ自体も含め改良の必要性がある。良い方法を考えなければ、アライグマの増大を食い止めることはできない。
- 民家の菜園に罠を仕掛けたところでは被害が出なかったが、いなくなったわけではないと思われる。
- 大人になると捕獲率が急激に下がるので、夏前の捕獲が有効である。
- 箱ワナにおいては誤捕(猫、タヌキ、キツネ)が多い。

9 今後に向けて

- 蘭越町では当組合だけでなく、他組織、個人で捕獲を行っているが、もっともっと大掛かりに広い範囲でやらないと大変なことになると思われる。
- 蘭越町において個人では1人、組織では当組織を含めて3つが捕獲を行っている。声掛けを行っているが、多くの協力を得るのはなかなか難しい。やはり、実害が出ないと動いてはくれないのが現状である。しかし、実害が出てからでは遅いのである。
- 捕獲をしていると感じるのであるが、タヌキなどと比べるとアライグマはとても綺麗でかわいい容姿をしている。現在は捕獲後安楽死をさせているが、殺すことに抵抗を感じる人も多くいるのではないかと思われる。なかなか難しいことではあるが、殺さなくてもいい方法を模索していく必要があるのではないだろうか。
- 罠の時は草刈りと電気柵によって、罠の被害を防ぐことができたが、アライグマは非常に難しい。また、外来生物であることから農作物への被害だけでなく、生物バランスを崩す恐れもある。早急な対策が望まれる。

10 総括

- 熊の被害はなくなったが、アライグマの被害は今のままでは今後たくさん出てくると思われる。上里地区においては金銭的な被害はそれほど出ていないが、家庭菜園を作って田舎暮らしを楽しんでいる人達が何人かいる地域である。せっかく楽しみにしていたものがなくなってしまうらどうだろうか。大げさな言い方かもしれないが、地域の荒廃に繋がっていくかもしれない。この地区はこの10年で5世帯増えている。今後もこの地域を守っていききたい。
- 上里地区は地図を見ても分かるように、背後にニセコ連峰をもつ里山地区である。もともと野生動物の沢山いるところで、我々はその中に住まわせてもらっているに過ぎない、上手く動物たちと共存していかなければならない地域である。熊、アライグマと住民側から自主的にこのような対策を取ってきた。地理的な理由だけでなく住民構成、その考え方などで自分たちでできることは自分たちでやろうという気運の強い地域である。しかし、実際やるとなるとお金のかかるのも事実である。今回このように農地水政策によって補助してもらえたことは非常に幸いであった。せっかくの政策なので他の組織も大いに利用してアライグマの撲滅に向かってほしいと願っている。

END

